

腸管出血性大腸菌感染症の発生について（令和8年 第2報）

1 概 要

令和8年1月9日、県内の医療機関から、患者から腸管出血性大腸菌O145およびベロ毒素を検出した旨、届出があり、患者の健康状態、行動等についての調査を実施した。

2 患者等の状況

- ① 患 者：県内在住の20代男性 1人
症 状：なし（無症状病原体保有者）

初診日	便検査	
	便検査開始	ベロ毒素確認
1/9	1/5	1/9

- ② 接触者の健康状況

接触者は2人、うち1人に腹痛、下痢等の症状があったが回復している。残りの1人は症状なし。（2人に対し検便実施予定）

3 発生に伴う対応

- ① 本人の健康状態、行動および喫食状況を調査
② 衛生教育の実施
③ 自宅等の消毒の指示 ※食中毒については、その可能性も含め医薬食品・衛生課(0776-20-0354)で調査中です。

4 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

		令和6年 (全国は暫定数)	令和7年 (全国は暫定値)	令和8年	備 考
全 国	届出数 (人)	3, 742	4, 319	—	昨年同期： 37
福井県	届出数(人)	8	13	2	昨年同期： 0
	有症者(人)	7	10	1	昨年同期： 0
	無症者(人)	1	3	1	昨年同期： 0
	初発(月日)	2/13	2/4	1/3	
	最終(月日)	11/26	12/18		

※ 腸管出血性大腸菌感染症の発生がありましたので、以下のことを徹底してください。

感染を予防するには、各家庭において次の事項に留意することが大切です。また、腹痛や下痢、血便等の症状がある場合には調理等を行うことを控え、早めに医療機関を受診しましょう。

- ① 少量の菌で感染が成立することから、手洗いが最も重要です。特に調理や食事の前、用便後や便の始末をした際には十分に手を洗いましょう。
- ② 調理器具は食品ごとにこまめに流水で洗い、熱湯をかけておきましょう。
- ③ 生野菜は流水でよく洗い、肉類や加熱する食品は十分に加熱（中心部を75℃で1分以上）しましょう。
- 生食用の牛レバーおよび豚肉（内臓を含む。）は提供・販売されていません。
- ④ 焼肉をする場合は、生肉専用の箸を用いるなど、箸の使い分けをしましょう。